

●北総鉄道2017年度(上期)決算

沿線の住宅開発などにより、収入は増加。
しかしながら、施設などの老朽化に対応するリフレッシュ工事などによる
修繕費が増加したため、今年度上期は増収・減益

依然として、有利子負債747億円をかかえ、
累積赤字は未だ105億円と巨額

北総鉄道(上期)決算について

(1) 上期決算の概況

29年度上期は、当社線の2期線沿線(新柴又～新鎌ヶ谷間)で、前年に引き続き、住宅開発が堅調でした。また、千葉ニュータウンエリアにおいても、新たな大型マンションの入居がありました。

その結果、定期外旅客は、沿線人口の増加等により、13万6千人、2.3%の増加、定期旅客についても、27万3千人、2.1%の増加となり、定期・定期外合わせて40万9千人、2.2%の増加となりました。

表① 輸送人員と旅客運輸収入

		2017年度上期	2016年度上期	比較増減	前年同期比
輸 送 人 員	定期外	千人 5,929	千人 5,792	千人 136	% 2.3
	定期	13,427	13,154	273	2.1
	合計	19,356	18,947	409	2.2
旅客運輸収入計		百万円 6,260	百万円 6,131	百万円 129	% 2.1

営業収益は、旅客運輸収入62億6千万円に、京成電鉄からの線路使用料収入のほか、成田スカイアクセスの業務受託手数料収入、千葉ニュータウン鉄道からの負担金収入等を加えて85億6千2百万円と、前年同期に比べて4億1百万円(4.9%)の増収となりました。

営業費用については、レール交換や車両検査のほか開業後38年経過に伴う施設・設備の老朽化に対応するため、今年度から5年間で実施するリフレッシュ工事などによる修繕費などの増により、60億2百万円と前年同期に比べ6億3千6百万円（11.9%）の増加となりました。

これにより、営業利益は25億5千9百万円と、前年同期に比べ2億3千5百万円（8.4%）の減益となりました。

また、営業利益に営業外収益と営業外費用を加味した経常利益は22億9千万円と、前年同期に比べて1億6千8百万円（6.8%）の減益となり、法人税等を差し引いた四半期純利益も、15億6千2百万円と前年同期に比べ1億3千8百万円（8.1%）の減益となりました。

以上により、当社が抱える繰越損失は未だ105億7千2百万円と、依然として厳しい経営状況にあります。

表② 比較損益計算書

(単位：百万円)

	2017年度上期	2016年度上期	差	増減率(%)
営業収益	8,562	8,161	401	4.9
営業費用	6,002	5,365	636	11.9
営業利益	2,559	2,795	△235	△8.4
営業外損益	△269	△337	67	20.0
経常利益	2,290	2,458	△168	△6.8
四半期純利益	1,562	1,700	△138	△8.1

表③ 貸借対照表

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
	百万円		百万円
資産の部		負債の部	
流動資産	13,067	流動負債	9,015
固定資産	85,051	固定負債	74,775
		負債の部合計	83,791
		純資産の部	
		株主資本	
		資本金	24,900
		利益剰余金	△10,572
		純資産の部合計	14,327
資産の部合計	98,119	負債及び純資産の部合計	98,119

(2) 今後の課題

前年に引き続き、2期線沿線、千葉ニュータウンエリアの住宅開発による沿線人口の増加により、今年度も増収が見込まれます。しかしながら、千葉ニュータウンエリアでは、今期も大型マンションの新規入居もあり入居戸数が増えたものの、少子高齢化や学齢人口の減少は着実に進んでおり、引き続き厳しい経営が続くことが懸念されます。また、多額の有利子負債をかかえている状況において鉄道施設の老朽化に伴う更新工事など安全対策等の設備投資のための資金需要の増加も避けられない状況にあります。こうした中で、長期、安定的な輸送サービス継続のためには財務体質の改善が急務であり、このため経費の削減はもとより、有効な増収対策や将来の沿線人口の増加につながる施策を推進するなど、より一層経営健全化の達成に邁進することといたします。